きえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォローF)でででは、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、部価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	校名 TEL 644-3903 FAX 645-8492 研究主任 鎌田 史顯 「豊かな自己実現を目指す生徒の育成」(9年次) 一一人ひとりの学習到達度をより高める指導法の工夫 「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めるとしまた、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めるとしまに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成14年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジで)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 でこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の整を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で					
日本	日本	学	山形市立第三中学校	校長	細谷	寛
研究 「豊かな自己実現を目指す生徒の育成」(9年次) ――一人ひとりの学習到達度をより高める指導法の工夫 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	研究 「豊かな自己実現を目指す生徒の育成」(9年次) 一人ひとりの学習到達度をより高める指導法の工夫 「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 中成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成14年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形のを工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	校	山形市双葉町二丁目1番10号			
「豊かな自己実現を目指す生徒の育成」(9年次) 一人ひとりの学習到達度をより高める指導法の工夫 「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めるとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジで)・補充学習場面(フォロートでの学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかい評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目れし、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	中央	名	TEL 644-3903 FAX 645-8492	研究主任	鎌田	史顯
「豊かな自己実現を目指す生徒の育成」(9年次) 一人ひとりの学習到達度をより高める指導法の工夫 「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めるとと同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジで)・補充学習場面(フォロードでの学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	中央					
主題 「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォローFでの学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の機を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で仮見を表現し、の場合を表現して、表現のでは、意味のである。	主					
理 「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォロード)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	理 「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。	究	'豊かな目己実現を目指す生徒の育成」(9 年次)		
「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォロードでの学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目折し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成14年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2力年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	主	│ ── 一人ひとりの学習到達度をより高める	指導法の	工夫 一	
をえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォローF)でで、の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 せたこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	をえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成14年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で仮 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	題				
きえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォローF)でででは、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、部価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	をえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成14年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で仮 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』		「白コ宝珥」とは、より豆り価値、つまり頭根の白コ	まりじす -	・レズち	2
主 進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジで)・補充学習場面(フォローFi定の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	主 進めてきました。 また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成14年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。					
また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成1年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォローFでの学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。	また、平成14年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成13年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成14年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	<u>+</u>		C & C 11 4	. C 1X P3	ТИТ Л. С
題 ると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成 1 3 年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成 1 年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジC)・補充学習場面(フォローF)での学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずでに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2 カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で仮 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	題 ると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成 1 3 年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成 14 年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォローF) での学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、の評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2 力年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』			11. 伴口 今	力向上	に努め
とともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成 1 3 年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成 1 年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォローF)での学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2 カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で仮、効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	とともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成 1 3 年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成 14 年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォローF) で の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2 カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	題				
 設 平成 1 3 年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成 1 年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジで)・補充学習場面(フォロード)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 理 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2 カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研 究	設 平成 1 3 年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成 14 年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2 カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	, AZS		5 576 67.	, o, E 1,2	CHO
年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジで)・補充学習場面(フォロード)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジで)・補充学習場面(フォローF)の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	設		指導計画の	研究、写	区成 14
定 の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、の評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	定 の学習場面設定(CF計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、の評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	#A				
 礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、の評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 せたっく年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』 	 礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまずきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 せこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』 	定				
に応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、由生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	に応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサプテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』					
理 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサプテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で、効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	理 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	の	│ │評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到	達度や習熟	度、つ	まずき
し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』		│ │に応じた指導には改善の余地、課題が残っております。			
由 生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサプテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で	由 生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	理	│ │ そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元	構成、授業	の改善	を目指
定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	定した。 研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』		│ │し、2カ年の研究成果を土台とし、「CF計画」の深化・	細分化・乳	態展を通	して、
研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	研究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	由	生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究	主題及びち	ナブテー	マを設
究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』		定した。			
究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』					
究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	究 『各教科の単元及び授業のCF場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』					
の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で	の 態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』					
仮 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』	仮 効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』					
						次的で
			効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につ 	ナるであろ	Ō。』	
		説				

	 (1)評価規準・基準の適正化と指導過程の工夫	
	生徒が到達目標を明確に持ち、意欲的に学習活動を展開するための学習目標	
研	の焦点化及び評価規準・基準の適正化を図る。	
	より確かな学力を身につけさせる指導過程の工夫を行う。	
究		
	│ │ (2)形成的評価の在り方とC・F場面での指導法の工夫	
o o	形成的評価後の指導法・指導形態の工夫を行う。	
	│ │ 生徒が到達度を自ら把握し、次の課題を見つけられる評価活動の工夫を行う。	
内		
	(3)「道徳」「学級活動」指導の充実	
容		
	(4)「総合的な学習」の実践課題の研究	
	1 節 (4 月 ~ 6 月)	
	・研究主題等、今年度の取り組み検討	
	・各教科、今年度の研究内容の検討	
	2 節 (6 月 ~ 8 月)	
	・研究主題、仮説、具体的方策、研究計画等の細案検討・決定	
	・研究についての勉強会(夏期休業中)	
研	目標・指導・評価の一体化をねらった指導過程作成	
	各教科の研究内容、具体的方策等の検討	
究	・6月18日、7月1・8日 教科部会…各教科の研究について	
	3 節(9月~10月)	
計	・授業研究会	
	・各教科での実践(通年)	
画	4 節(10月~1月)	
	・授業研究会	
	・各教科での実践	
	・今年度の研究の評価	
	・研究のまとめ	
	5 節 (1 月 ~ 3 月)	
	・次年度研究計画	
	・研究紀要の発行	